



masato nakamura
Relive-EIHO Project

<http://www.commandn.net/~eihorelive/>

旅館再生をアーティストと共に!!?



天然のいけすと呼ばれる富山湾で捕れる日本一の地の魚を、自慢の料理人が最高の料理として提供する。全国ブランドと定着した氷見ブリをはじめとして、季節事に移り変わる海の幸を求めて、全国からリピーターが絶えない知る人ぞ知る旅館。

〒935-0002 富山県氷見市阿尾 3257
TEL (0766) 74-0700 FAX (0766) 74-2334
E-mail okami@eihokaku.com (担当: 平田)

永芳閣ホームページ <http://www.eihokaku.com/>

女将: 平田淑江

夏が旬! 人気の天然岩ガキプラン
1泊2食付 お1人様料金
15000円(税別)より



元気になるプロジェクト

こうした準備段階を進行すると共に、このプロジェクトの使命は単なる旅館自体の経営再建を超え、持続性や創造性をも求めていくことへと必然的に膨らんだ。再生を支援した多くの協力者、氷見市という地域社会、そこで生活する人々そのもののポテンシャルを高め、そのエネルギーを総合的にフィードバックさせていく。この循環性を確立させてこそ、人や物が健康的に動き出していく基盤になるのだ。ここから内に留まらず外側へ広げていくパワーは、永芳閣と同様の問題を抱えた全国の旅館や地域、現代という社会に生きる個人にまで発信されることだろう。このプロジェクトから生まれる様々な広がり、出会い、ホスピタリティを総合したもの。これが「永芳ライブ」である。

ここにある可能性

永芳閣、氷見市、人々…ここにただ物理的な加除を与えるのではなく、多角的な視点から観察し、眠れる価値を再発見し拾い上げて、活かしていく。今だけをしのぐためではなく、次世代にまで繋がっていく精神性を確立、維持していく。永芳ライブは、付け焼き刃的なイベントや通例の方法論では成し得なかったサスティナビリティ(持続的発展的思考)を追求するという、全く新しい挑戦的なプロジェクトだ。

具体的な計画として、永芳閣のソフト、ハード両面における長期的再生計画: マスタープランが夏までに制作される。WEBサイトを始めたパブリシティも、既成のスタイルとは異なった冒険を試みていく。また、9月には地元の街づくり関係者による第二回目の氷見クリックが開催され、アーティストと市民が共同で、氷見の様々な表情を繋いだ映像作品を制作、上映する。永芳ライブは今この瞬間さえ、確実に振動し、その姿を膨らませている。

Relive JOURNAL

2004.05.16~20

#004_氷見永芳閣訪問
氷見クリック_VOL.1 [※1]

旅館リサーチ&ミーティング・プロジェクト組織編成決定・市内リサーチ・東京芸大中村研によるフィールドワーク・地元の方々+高岡短期大学の学生を交えてプレゼンテーション&懇親会

2004.05.20

PUBLICATION: 北日本新聞

「氷見の資源 積極的活用を東京芸大院生が市内調査」

2004.06.23~25

#005_氷見永芳閣訪問

旅館リサーチ&ミーティング・大々的リニューアルへ向けたスケジュール・既存ウェブサイト構成・全料理プラン撮影

2004.04.07

PUBLICATION: 美術手帖2004.07号

永芳閣ウェブサイトリニューアル_VOL.01

2004.07.19~22

#006_氷見永芳閣訪問

全従業員対象全体ミーティング・プレスリリース及び二階大広間改善に関するミーティング

2004.09

"氷見温泉郷 魚巡りの宿 永芳閣"としてリニューアル予定